

きらめき

No. 65



R4. 4. 28 萩野小学校

じゃんけん勝利でプレゼントGet ～1年生を迎える会～

人と、未来と、ほくと。

萩野小学校体育館にて、1年生を迎える会を実施し、17名の元気な1年生が上級生とゲームを楽しみました。





「音楽のまち・ほくと」

音楽がマチカドに咲く北斗市。さまざまな場所、場面に音楽が寄り添っています。

童謡「赤とんぼ」は詩人の三木露風がトランプ修道院で講師として働いていた時にふるさとを思い出して作詞されたといわれています。北斗市では午後5時になると、「赤とんぼ」が毎日防災無線から流れるなど、多くの市民に広く親しまれています。



赤とんぼの演奏風景

「赤とんぼとふるさと」

6月18日(土)、19日(日)に北斗市総合文化センターで開催された「第1回北斗音楽セミナー2022」。

日本のクラシック音楽界の第一線で活躍中のプロ奏者5名が集結し、それぞれのレベルに合わせた直接指導を2日間にわたって受けられる講習会として企画されました。

71名の受講者が参加し、中には札幌や東北から受講する生徒もおりました。受講者は真剣なまなざしでプロ奏者の指導を受けていました。

短い時間ではありましたが、講師によるコンサートも開かれ、受講者および聴講者の皆さまはプロが奏でる素敵な音色に酔いしれていました。



クラリネットレッスンの様子 (近藤 薫先生)

開催初日には、参加者を歓迎するウェルカムコンサートが開かれ、上磯中学校吹奏楽部の演奏で初披露されたのが「赤とんぼとふるさと」です。

この曲は、北斗市が作編曲家の郷間幹男氏(東京オリンピックピック2020閉会式音楽編曲担当)に依頼して作られた曲で、北斗市の心の歌である「赤とんぼ」と、日本人の心の原風景ともいえる文部省唱歌「ふるさと」の2曲を合わせて作られた美しく感動的な作品です。

これから北斗市内の多くの吹奏楽団体で演奏されていくことでしょう。



「赤とんぼとふるさと」を演奏する 上磯中学校吹奏楽部

「マチナカコンサート」「エキナカコンサート」

北斗市内で行われるさまざまなイベントに、音楽が取り入れられています。

「音楽を身近に感じ、気軽に音楽が楽しめる」それが北斗市の魅力です。

ゴールデンウィークには、商業施設で上磯中学校合唱部が合唱曲の他、ダンスなども交えながら楽しいステージを披露しました。



上磯中学校合唱部による合唱 (イオン上磯店)

松前藩屋敷戸切地陣屋跡で行われた桜まつりには、上磯小学校吹奏楽部が登場しました。元気の良い息の合った演奏でたくさんのお客や花見客を楽しませてくれました。



上磯小学校吹奏楽部による演奏 (松前藩屋敷戸切地陣屋跡)

新函館北斗駅で行われたカレーフエスでは、エキナカコンサートを開催しました。

「音楽がつながる。音楽でつながる」

音楽がつながる人と人の輪。「音楽は翻訳を必要としない共通言語」といわれています。北斗市でもさまざまな分野で音楽とコラボレーションし、多くの人とつながっています。

北斗市は、ろう者および手話に対する理解を深めるため、平成31年に「北斗市手話言語条例」を制定しました。吹奏楽や合唱などに手話を取り入れる活動をしています。



手話を習う生徒たち

日本の伝統音楽である三味線と吹奏楽のコラボレーションや演奏会も行いました。



三味線との合同演奏

北海道警察音楽隊のステージには、上磯中学校吹奏楽部がゲスト出演しました。



北海道警察音楽隊との合同演奏

北海道の「当地アイドル」Snow☆Edin（スノーフェリス）とずーしーほっきー、上磯中学校吹奏楽部のコラボレーション企画も行い、「音楽のまち・ほくと」が紹介され、北斗市の魅力を全国に発信しました。



スノーフェリス・ずーしーほっきーとコラボ

今後も「音楽のまち・ほくと」をテーマに、市民の皆さまが主体的に芸術に関わることで「住んでみたい・住んでよかった、住み続けたい」と感じられる北斗市を目指します。

（学校教育課指導主事 中條 淳也）

文化団体協議会サークル紹介

●NJBほくとウインドオーケストラ

代表者／中條 淳也
 団員数／60名
 場所／北斗市総合文化センター
 活動日／音楽イベントに合わせて随時

私たちは上磯中学校吹奏楽部の卒業生を中心に今年の4月に結成しました。

音楽を通して自分たちも楽しみながら地域の皆さんに楽しんでもらえることを目的としています。

演奏会ごとに本番の数日前に集まって練習します。

上磯中学校の卒業生に限らず、一緒に演奏したい人は大歓迎です。

素敵な音楽を奏でましょう！

●つまみ細工サークル「そわか」

代表者／前川
 会員数／12名
 場所／北斗市公民館
 活動日／毎月第1月曜日（月1回）

つまみ細工とは、正方形にカットした布をつまんで折り畳み、糊付けして台紙

にお花や鳥などを形作る伝統工芸です。髪飾り・アクセサリー・オブジェなどを月1回の集まりではありますが和気あいあいと楽しく制作しています。

●北斗市文化団体協議会新会長挨拶

この度、北斗市文化団体協議会会長を務めさせていただきます大野吹奏楽団の協坂新市と申します。

この2年間新型コロナウイルスの影響により活動が制限され、感染が心配で活動場所にすら行けなかった方も多かったことと思います。今年に入ってワクチンの接種も進み、いろいろな催し物などが開催される動きが見受けられます。

各サークルの皆さまには発表する場を設けて、以前の活動に戻れるきっかけを作ることが当会の役目と考えております。より良い文化団体にするべく精進して参りますのでよろしくお願い申し上げます。

なお、「北国の花とコンサート」の名称を「北斗の杜もりコンサート」と変更しましたことをお知らせします。

北斗市文化団体協議会

会長 脇坂 新市

（北斗市文化団体協議会

事務局長 小野 育子）

外部講師を活用した 教育の充実と推進



コロナ禍において、本来の教育活動や行事が制限される中、上磯小学校では、児童の学びの機会を継続できるように外部講師を活用した教育を進めております。感染対策や時間、環境に工夫しながら、取り組んだ教育活動について紹介します。

* 一日防災学校の取り組み

防災について考えを深め、実践に繋げるため、一日防災学校を実施しました。避難訓練と保護者に災害時を想定した引き渡し時に行う安心安全メールによる安否確認（開封確認要求）訓練を行い、協働体制を整えました。

外部講師を活用した学習は、函館地方気象台とオンライン（Zoom）で連携した授業を展開しました。



函館気象台とオンライン授業
「津波から逃げる」（5年生）



北海道地域防災マスターを招いて
～「防災」って何のため？災害ボランティアが見た被災地」（6年生）～

市役所や消防署、警察署などより多くの関係機関や保護者との連携を考えていましたが、コロナ禍のため、当初の計画から内容を変更せざるを得ないものもありましたが、担任による「新聞紙で作るスリッパ作り」など体験的学習も取り入れました。



身近な新聞紙でスリッパ作り

* SDGsを意識した 教育活動

SDGsの理念に基づき「一人も取り残さない」ために、持続可能な社会の担い手を育てていくことを目標に高学年に実施しました。社会科や理科、総合学習の時間で子どもたちがタブレットを活用し、学びを深め、まとめとして、外部講師による授業を行いました。

SDGs 17の目標 エネルギーをみんなに そしてクリーンに



6年生授業の様子
北海道電力ネットワーク株式会社
押切 哲氏 石田 千裕氏

子どもたちは、常に「行動の意識付け」をキーワードとして学習を進めています。

* がん教育

より専門性の高い外部講師を招いた授業は、子どもたちの意欲や関心を高めます。6年生の体育科（保健）「病気の予防」の学習では、その学習内容である「生活習慣病」と「がん」が深く関わっていることにも触れ、児童があらためて自分の普段の生活を見直すきっかけとなりました。



湯の川女性クリニック
小葉松洋子先生の講演の様子

* 今後に向けて

外部講師を招いて学習を進めることは、児童にとって有意義な学習ですが、時間の確保、連絡調整・児童の発達段階を考慮した内容精選など課題もあります。単発で終わらず、系統立てながら継続し、行動化につながるよう、土曜授業などの時間を活用しながら、進めていきたいと考えています。

（上磯小学校 養護教諭 高橋 里美）

コロナ禍でもたくましく！ 渡島で一番の学校を目指して！

浜分小学校

あいさつを本物に！

本校では、「あいさつ運動」「がんばり運動」「親切運動」の三つの運動を大切に子どもたちは生活しています。その中でも、今年度は特にあいさつ運動に力を入れて取り組んでいます。「あいさつは言葉のハイタッチ」の考えのもと、先自分からあいさつできる子どもの育成を目指しています。

児童会によるあいさつ運動

月・水・金曜日の朝には、児童会の子どもたちが玄関や校内のいろいろな場所に立って声をかけています。自分から相手に働きかけることで、積極性や協調



低学年もあいさつが定着してきました



玄関前で元気にあいさつする児童会



ペッパーくんも一緒に朝のあいさつ運動に参加しています

性が養われていきます。高学年が大きな声で「おはようございます！」とあいさつしているの、自然と下級生も大きな声で「おはようございます！」と返すことができるようになりました。

ペッパーくんもあいさつ運動

北斗市のプログラミング教材で、学校に貸し出していたいただいているペッパーくんも玄関であいさつしています。ペッパーくんが「おはようございます。君は元気？」とあいさつをすると、子どもたちははにかみ笑顔であいさつを返してい

ます。

今後は、子どもたちが校外で、地域の方にもあいさつできる姿を目指しています。いつでも、だれにでも、自分から進んで、本物のあいさつができるよう、継続して取り組んでいきます。



地域の人にも進んであいさつを。いつでも、だれにでも!!

ラジオ体操で元気いっぱい！

6月14日、16日の2日間にわたり、北斗スポーツクラブZOSSの方に協力をいただき、ラジオ体操の講習を受けました。体育館で講師の動きを見ながら練習する学年と、オンライン（Zoom）配信を見ながら練習する学年に分かれて行いました。

手を軽くにぎるところ、かかとをあげるところ、体を曲げるところや、逆に曲げすぎないところなど細部にわたって指



密に気をつけ、Zoomを活用して受講したクラスも



動きのポイントを適切に指導して下さったNOSSの指導員

導していただきました。教えていただいたポイントに気を付けて正しいラジオ体操を、先日の公開学年体育で、保護者の皆さまに披露することができました。

今後は、希望者を募り、作ったチームでラジオ体操コンクールにも出場する予定です。コロナ禍でも、体を動かし、健康的に生活していきたいと考えています。



公開学年体育で息の合ったラジオ体操を披露する6年生

(浜分小学校 長谷川 理美・
廣瀬 葉子)

小さな学校の 大きくなつながら

石別中学校で育まれる 心のあたたかさ

みんなでテストもダンスも

令和4年度、石別中学校に在籍している生徒数は、1年生2名、2年生6名、3年生5名の計13名です。

全校生徒が集まっても13名という状況は、規模の大きな学校と比べると、学級一つ分にも満たないものです。

「人数が少ないから」やりにくい、できない活動もあるのかもしれませんが、「人数が少ないから」やりやすい、できる活動があるのだということ、石別中学校の生徒たちは毎日のように経験をしています。

1. テスト

定期テストや学力テストなど、全校生徒がテストに取り組む日は、中央ホールに机と椅子を持ち寄り、同じ時間と空間でテストを受けます。

先輩みたいに頑張ろう、後輩に



全校生徒で運動会に向けたダンスの練習

負けられない、そんな緊張感が高い地よい一日です。

2. 体育の授業

運動会などの体育的

行事に向けた練習を全校で取り組む、というのは多くの学校で実施していることですが、石別中学校の体育の授業はそれ以外でも合同です。

陸上競技、バレーボール、野球など、さまざまな種目で力を合わせています。

種目によっては先輩の方が先輩より活躍することもあり、良い刺激を与え合う日々です。

3. 総合的な学習の時間

一年間の見通しをもつオリエンテーションに始まり、地域の方との交流や学校の看板づくりなど、総合的な学習の時間の多くも全校生徒が一致団結して進めます。

石別中学校の生徒は、学年の枠を超えて交流し、協力し、日々の生活を充実させ



総合的な学習の時間オリエンテーションの様子

せています。そしてそこで培われた絆は、もちろん行事にも発揮されます。

三者合同運動会

5月28日(土)に、三者合同運動会が開催されました。

三者とは、石別中学校、石別小学校、そして地域を指します。

会場は石別小学校グラウンドで、毎年地域の方々が多く参加します。

競技内容や種目は、毎年人数などに合わせて調整され、今年のような種目が行われました。

- ・徒競走
- ・リレー
- ・大玉ころがし
- ・綱引き
- ・玉入れ
- ・ダンス
- ・ゲートボールリレー

地域の方々には競技への参加のみならず、会場の準備や用具の片付けなどの運営面を手伝っていただき、まさに三者が協力してつくりあげる一大行事です。



綱引き

特に3年生は小中9年の最高学年として、リーダーシップを発揮して頑張りました。紅白の団長となった2人をはじめ、地域の声援に励んで汗を流した一日でした。



大玉ころがし

石別中学校では今後も、校区内のさまざまな施設と交流をしたり、授業を公開したりなど、地域とのつながりを大切にしていきたいと思います。

ほかにもある石別中の取り組み

☆ノーチャイム

生徒の自主性を育むことを目的として、終日チャイムは鳴りません。生徒は時計を見て、自分の判断で動いています。

☆特認校

個別最適な学びの実現を目指し、求めに応じて校区外の生徒を受け入れています。該当の生徒はいさりび鉄道に乗って、毎日通学しています。

(石別中学校教諭

渡部 知也)

安心・安全を重視した 感染症対策を

執筆時の6月10日現在、新型コロナウイルスの新たな感染者に減少傾向が見られます。そのような中、各小中学校では、運動会や体育大会を無事に終えることができました。その後の修学旅行等も滞りなく実施できるものと期待しています。

しかしながら、海外でのオミクロン株の新たな亜系統の出現、感染症療養後の後遺症に悩まされる方についての報道があり、予断が許されない状況には変わりないため、「学校の新しい生活様式」に基づく感染症対策の継続は必要不可欠です。また、5月下旬、国は、マスク着用の重要性は変わらないとした上で、子供の「マスク着用の必要がない場面」を示しました。それを受け、北斗市立小中学校では、子供たちの安全や安心を最重要視した「マスクの着脱の場面」を明確にし、統一した取り組みを進めています。

それでは、ここで、学校での感染症対策の三つのポイントと、マスク着脱の場面について確認させていただきます。

一 感染源を絶つこと

外からウイルスを持ち込まないため、児童生徒や教職員とその家族の「検温結果・健康状況の把握」「発熱や咳等の症状がある場合は登校しない」を徹底します。

二 感染経路を絶つこと

基本的な感染対策である「三密の回避」「人と人との距離の確保」「マスクの着用（不織布マスクの推奨）」「手洗いなどの手指衛生」「換気」等を徹底します。

三 抵抗力を高めること

「十分な睡眠」「適度な運動」「バランスのとれた食事」を心掛けるよう指導を徹底します。また、「予防接種」も、発症や重症化の予防等の効果が期待されます。

☆ 学校でマスクを着用する場面

○教室等での学習時間や休み時間

・熱中症対策として、マスクを外す機会や水分補給の機会を適時設定。

○登下校中や放課後の遊び

・複数行動を想定し、マスク着用が基本。
・一人や身体的距離が確保できる場合、会話がないう場合は、マスクは不要。

☆ 学校でマスクを外す場面

○体育館やグラウンドでの体育の授業や休み時間

・近距離での会話は、マスクを着用。

○部活動

・各団体のガイドラインを踏まえて対応。
・活動実施中以外は、マスク着用が基本。
これから迎える夏本番での各学校の熱中症対策を講じた感染症対策に、ご理解とご協力をお願いいたします。

(北斗市校長会 石別小学校

校長 山本 公作)

暑さに負けない体づくり

「暑熱順化」という言葉をご存じでしょうか。「暑熱順化」とは、体が暑さに慣れることです。

人は運動などで体を動かすと、体内で熱がつけられ体温が上昇します。体温が上がった時は汗をかくことによる気化熱や、体の表面から熱を逃がす熱放射で、体温を調節しています。この体温の調節がうまくできなくなると、体の中に熱がたまって体温が上昇し、熱中症が引き起こされます。「暑熱順化」が進むと、発汗による気化熱や体の表面から逃がす熱放射がしやすくなります。つまり、熱中症に負けない体をつくるには、「暑熱順化」により暑さに慣れることが重要なのです。

では、どのような方法で暑さに慣れるとよいのでしょうか。今回は暑さに負けない体づくり、「暑熱順化」に有効な方法を4つご紹介します。

一つ目は、ウォーキングやジョギングです。ウォーキングの場合は1回30分、ジョギングの場合は1回15分を目安として、週5日程度行うと効果的です。外出時にできるだけ階段を使用する、近くのお店まで歩くなど、少し汗をかくことを意識すると良いでしょう。

二つ目は、サイクリングです。時間は

1回30分、週3回程度が目安だそうです。自転車に乗って風を切り、自然豊かな北斗市内を走ることで、視覚からも癒やされるでしょう。

三つ目は筋トレ・ストレッチです。こちらは室内で行うことが可能です。時間は1回30分、週5日から毎日を目標に行うと良いでしょう。筋トレやストレッチを行うときは、室内の温度には注意し、暑くなりすぎたり水分や塩分が不足したりしないようにしましょう。

最後、四つ目は入浴です。暑いから、面倒だから、などの理由からシャワーのみで済ませていませんか。時には気分転換も兼ねて、湯船にお湯を張って入浴してみてもいかがでしょうか。入浴の前後に十分な水分と適度な塩分を補給し、入浴してほぐす汗をかくと良いでしょう。入浴の目安は2日に1回程度だそうです。暑さが本格化する7月。暑さに負けない体をつくるためには、適度に汗をかくことが重要です。

ぜひ今回紹介した方法を試してみたいかがでしょうか。「暑熱順化」を意識して、今年の夏を乗り切りましょう。

(北斗市学校保健会

石別小学校養護教諭 丹羽 七海)



暑さに打ち勝ちましょう

子どもチャレンジ講座が

始まります！

Challenge!

子どもチャレンジ講座ってなに？

この事業は、子どもたちがたくましく、健やかに成長することをサポートするために、子どもたちの休日の時間を有効活用し、地域の文化団体・サークル、まちの匠の登録者と連携しながら、子どもたちにさまざまな文化・体験活動の場を提供する事業です。対象は、市内の小・中学生・中学生です。



パンづくり講座（令和3年度）

昨年は前年度比2倍の人気事業！

1年間を前期と後期に分け、前期は、7月9日（土）から9月3日（土）の夏休み期間と土曜日に開講する予定となっています。

昨年は、ヨガ講座や石けんづくり講座といった新規講座も開講し、前年度の約2倍の申し込みがありました。

本年度は、「パンづくり」や「スイー

ツづくり」などの食べ物を作る講座や、「ポッチャスポーツ」「ジュニアスポーツ」などの体を動かす講座、「レジニアクセサリーづくり」や「バスボムづくり」などのものづくり講座など、多様な講座を開講します。

7月31日までに行われる講座の申し込みは終了しましたが、夏休み期間中の8月1日以降に行われる講座については、7月13日（水）が締め切りとなっております。切りますので、ぜひ一度、参加してみてください。いかがでしょうか。



レジニアクセサリー講座（令和3年度）

また、12月から来年3月までの冬休み期間と土曜日には、後期の子どもチャレンジ講座の開講を予定しています。バラエティに富んだ講座を用意いたしますので、多くの皆さんの受講をお待ちしています。

（社会教育課 木島 悠）

北斗市立図書館だより

北斗市の初夏は、野山に色とりどりの花が咲き、さわやかな風が吹き渡ります。海も太陽の光に輝いて本当に気持ちの良い季節です。

豊かな自然に恵まれた北斗市では、気軽にアウトドアを体験できます。図書館では野外を楽しむ本、野外の危険に備える本も豊富に用意していますので、皆さんの参考になれば幸いです。それではこの夏の図書館情報をお知らせします。

特設コーナー

●『夏を涼しく！2つのテーマ』

①夏を涼しく過ごすための本
暑い夏にぴったりのレシピ本、涼しい気分になる絶景の本、夏を快適に過ごせるヒント満載の本などを集めました。

②夏だ！おばけだ！妖怪だ！

怖いけれど読んでみたい、もっと知りたい幽霊、妖怪、怪談の本。子どもから大人まで楽しめる本を集めました。

7～8月、本館にて展示します。分館では①を7月、②を8月に展示します。

●『第68回青少年読書感想文全国コンクール課題図書』（本館・分館）

今年も、さまざまなテーマの物語やノンフィクションが学年別に選定されています。夏休みの読書で迷ったら図書館に足を運んでみてください。

なお図書館では、広報などで紹介した展示のほかに、随時、旬の話題をテーマに特設コーナーを更新しています。

この夏も皆さまのご来館をお待ちしています。

サピエ図書館を

知っていますか？

図書館は、視覚障害者情報総合ネットワーク（サピエ）に加入し、全国の音声図書や点字図書を貸出できるようになりました。詳しい利用方法については、図書館までお問い合わせください。

対象：目の不自由な方、字を読むのが困難な方、寝たきりやまひなどにより本のページをめくることができない方

※対象になるかは、図書館までお問い合わせください。

（北斗市立図書館司書 荒竹 規子）

笑顔で遊ぶ中で

運動能力の基礎づくりを!!

バルシューレ教室の開催

◎バルシューレとは

バルシューレとは、ドイツ・ハイデルベルク大学で1998年に開設された「ボール運動」プログラムです。約150種類の遊びを通じて子どもたちのボールゲームの能力を開発する目的で誕生したものです。子どもの発達段階を考慮したプログラムが用意され、幼児から小学校低・中・高学年へとステップを踏まえて指導されていきます。子どもたちは、遊び感覚で楽しく夢中に運動に取り組みるのが魅力です。



幼児の部

◎子どもの運動能力の向上に向けて

小さい子どもの世代は、どのような視点にも通ずる器用な身のこなしや、多様な戦術的思考など多くのボールゲームに共通する技術の土台を築くことを目指しています。子どもの運動能力は、身近な遊びの中で培われることが多くありま

すが、近年子どもたちの遊び方も室内ゲームの増加と屋外遊びの減少などで片寄る傾向にあります。昔は、自然の中で遊ぶことも多く、その中で遊びの工夫がされ、いろいろな運動能力を知らず知らずのうちに身に付け、合わせて集団でのコミュニケーションなども身に付けてきました。

バルシューレでは、子どもの多面的な能力を伸ばすために多種多様な運動・ゲーム形式・用具などを選択し、段階的に個別スポーツへの移行を図っていきます。

また、コミュニケーション能力の向上も図ることができます。

◎バルシューレ教室の様子

5月23日(月)、北斗市総合体育館において、4人の指導者をお迎えし、道南初の「バルシューレ教室」が開催されました。北海道道南ブロックでは、各スポーツ団体と協力し、スポーツの入り口づくりとして「バルシューレの活用」を通して幼少期に必要な運動能力を楽しくみながら身に付ける環境を提供したいと考えています。

今回は、幼児(3・4・5歳児)と小学生(1・2・3年生)を対象に、2部構成で指導にあたりました。参加者の中には、運動未経験の子どもや初心者の子どもも交えて、総勢19名の子どもたちの参加となりました。各50分間の指導でしたが、最初は緊張していた子どもたちも徐々に慣れ、笑顔いっぱい元気あふれる教室になり、大いに盛り上がりました。

幼児の部では、5名で少人数の参加でしたが、4名の先生と挨拶を交わすうちに徐々に打ち解け笑顔も増えていきました。中には涙ぐむ子もいましたが、女性の先生の声掛けと励ましで最後までやり遂げることができました。ボールやスカーフ・スポンジ板などを使用しているような動作をして楽しく遊んでいました。

小学生の部では、14名が参加し、ボールを使用していろいろな動作を交えて投げたりキャッチして相互間で機敏に動くなどの動作をしました。他にも、転がるボールを四つんばいで逃げ回り身を交わす運動など、楽しく取り組む様子が見られました。ボールを蹴ってコーンに当て、そのコーンを置き換え



小学生の部①

ていきゴールを目指す競技では、子どもたちが夢中になり真剣に取り組んでおり、指導者から示される動きを楽しみながら取り組む様子が印象的でした。

◎バルシューレ教室を通して

今回、幼少期に必要な運動能力を「楽しみながら身に付ける」という狙いでバルシューレ教室が開催されましたが、多くの興味関心が持たれる教室となりました。見学されていた教育委員会の方々、北斗スポーツクラブスタッフの方々、そして保護者の方々も興味深く参観されていました。

子どもたちは、指導者から示されたことをやらされている感覚ではなく、いろいろな器具を使い自ら遊んでいる感覚で動き回るうちに、どの種目にも夢中になっていきました。

そして、笑顔と笑い声で子どもたちの動きもますます良くなり、運動量も増えていきました。50分間の短い活動でしたが、子どもたちは満足して楽しいひと時を体験することができました。



小学生の部②

(北斗市スポーツ推進委員会)

委員長 安達 孝義

ほくと遺跡ものがたり

遺跡が語る北斗の歴史 第8回

はるかむかし、旧石器時代・縄文時代から現代に至るまで、一万有余年の間、ここ北斗の地で営まれ続けた人類の歩み。当コーナーでは、こうした北斗の歴史について、「遺跡」に焦点を当て、今回は江戸時代前半から半ばにかけて、和人とアイヌの人々との関係が大きく動く時代についてご紹介します。

これまで当コーナーでは、「遺跡」を主題に置いて北斗市地域の歴史をつづり、第7回では江戸時代前半までについて紹介しました。しかし、ここで一つ問題となることは、当地においてその次の時代「江戸時代前半から半ば」にかけての遺跡は現在見つかっていない、ということ。その一方で、古記録・紀行文・古地図など文献史料の調査を進めており、現在合わせて約100件ほどの史料から当時のデータを集めることができます。北海道、そして北斗の歴史において、この時代は非常に大きなポイントとなる避けては通れない時代です。よって、コラムテーマは従来通り「ほくと遺跡ものがたり」ですが、今回に限り、遺跡による「ほくと歴史ものがたり」になることをお許しください。

1 江戸時代前半の北斗市地域の「役割」

当コーナー第7回にて紹介したとおり、当時の古地図を調べると、北斗市地域の地名として「ススホッケ」「トウヘチ」「モヘチ」「ヘケレケチ」と、いずれもアイヌ語に基づく地名が表記され、そのほか『津軽一統志』（寛文9・1669年）や『寛文拾年狄蜂起集書』（寛文10年）などの文字史料でも、知内より東については「狄居（アイヌの人々の住まう場所）」あるいはアイヌの人々の村々が「おとな（代表者）」の名とともに記載され規模・数ともに和人の村をしのぐなど、少なくとも17世紀の半ば〜後半ごろまでの北斗市地域における生活者の主体はアイヌの人々であったと考えられます。

17世紀当時の北海道では、アイヌの人々はそれぞれの部族間の抗争や交流などを経て、広い範囲での文化的・政治的なつながりとまとまりをもつ地域集団が形作られていました。例えば、胆振・日高地方を領域としたシムムクル、シブチャリ（現在の静内町周辺）から釧路・厚岸までの広い範囲を領域としたメナシクルなどがそれにあたります。その中でも有力なまとめ役となる首長を松前藩は惣大将または惣乙名と呼んでいました。彼らは共同体としてそれぞれが強い独立性を有しており、その中で松前藩の扱いは（松前藩側がどう考えていたかはと

もかく）そうした関係性の下、対等に交流する一勢力に過ぎなかったようです。その性格は『津軽一統志』に見える、当時の石狩アイヌの惣大将・ハウカセの「松前殿は松前の殿、我等は石狩の大将」という言葉からもうかがい知ることが出来ます。当時の北斗市地域におけるアイヌ・和人の混居する姿は、こうした広域なアイヌ地域集団がそれぞれ割拠する蝦夷地と、当時は松前・福山周辺に限られていた和入地との、いわば緩衝地域としての役割を果たしていたともいえるでしょう。

2 シヤクシャインの戦いとそれがもたらしたもの

体崩壊を伴う大噴火を起こします（寛永大噴火）。現在の特徴的な姿の原因ともなった山体崩壊に伴う大量の岩屑なだれが太平洋へと流れ込み大規模な津波が発生、道南の東側から十勝にかけての広い範囲に被害を及ぼします（ちなみに、この時に折戸川がせき止められてできたのが大沼・小沼です）。また、広範囲に降った火山灰もあわせ彼らの生活の基盤に大きなダメージを与えた可能性があります。なお余談ではありますが、地名調査の一環として、江戸時代に著された史料中で現在の「駒ヶ岳」が何と呼ばれていたかについても情報を集めており、現在60件ほど確認できていますが、そのうちもっとも古い寛永20（1643）年の『新羅之記録』から幕末に差し掛かる1840年代までの200年間に付いては、ほぼ一貫して「ウチウラ（内浦）嶽（山）」の名で呼ばれており、「駒ヶ岳」という呼び名が完全に一般化するのには明治以降であることがわかっています。

この関係に大きな変化をもたらしたのが、寛文9（1669）年に起きたシヤクシャインの戦いです。松前藩二代藩主・公広の三男であり、当時幕府の旗本としてこの戦いの指揮を執った松前泰広の報告に基づく『没舍利蝦夷蜂起二付出陣書』によれば、この起こりは慶安元（1648）年、良好な漁場であったシブチャリでその領域を接していたメナシクルの大将・シヤクシャインとシムムクルの大将・オニビシとの争いでした。この抗争の背景としては、当時の自然環境の悪化をその一因と考えることもできます。寛永17（1640）年、駒ヶ岳が約3千年ぶりに火山活動を再開し、山

この「ウチウラ」については、「内浦」表記が一般的のため一見和語由来に見えますが、天明8（1788）年の『松前蝦夷地之図』では「此山ヲ蝦夷ハ内浦ヶ嶽ト称ス（この山をアイヌの人々は内浦ヶ嶽と呼んでいる）」とあるように、どうやらアイヌ語由来の地名であったようです。

その語源について明確に言及した記録は現在見つけられていませんが、推定されるものとしては並んだ二つの峰を見立てたJura（ウトウラ、互いに・一緒にいる）、あるいは噴煙を上げる様から見たJhu-y-nupuri（ウフイヌプリ、燃える・山）などと考えられるかと思えます。

6年に渡るこのメナシクルとシユムクルの争いは、交易への支障などを危惧した松前藩の仲裁により一度は収まります。しかし寛文7（1667）年、シャクシャインとオニビシの間で抗争が再燃し（この間に有珠山が1663年、樽前山が1667年に大噴火を起こしており、これらによる生活環境の悪化が引き金となっている可能性もあります）、オニビシが殺されてしまいます。この際シユムクル側の使者ウタフらが松前へ赴き兵員や武器などの援助を求めましたが、松前藩は中立を守るためこれを拒否。その帰路において、不運にもウタフが**疱瘡**（**天然痘**）にかかり死んでしまうのです。

当時、天然痘は世界各地の人々を苦しめていたウイルス性の感染症で、致死率も非常に高いものの、千年近くこの病ともにあつた和人にとってはある意味ありふれたものでもありました。しかし、長く北海道島で独立した暮らしを続けて

いたアイヌの人々にはそれに対する免疫は皆無に等しく、後の時代にはさらに甚大な被害をもたらすこととなります。

このウタフの死が「松前藩による毒殺である」という風説となつてアイヌの人々に伝わり、さらに交易上の不公平や資源の収奪など**長年の和人への不満**も重なり、**松前藩ひいては和人全体への敵対心**を強めることとなります。これを受け、シャクシャインは敵対関係にあつたシユムクルを含む蝦夷地全域のアイヌに蜂起を呼びかけ、結果、寛文9（1669）

年6月、各地で一斉に**和人に対する襲撃が行われること**となります。この犠牲となつたのは鷹待（当時松前藩の主要な財源の一つであつた鷹を捕らえるために蝦夷地入りしていた鷹匠）や金堀り、あるいは商船の乗組員である商人や水夫といった、アイヌの人々が不満を募らせる対象となつていた行為に関わる人々がほとんどでした。この事態の報告を受け幕府は指揮官として旗本・松前泰広を派遣するとともに、松前藩勢に津軽藩による援軍を加え鎮圧を図ります。これが、後というシャクシャインの戦いの始まりでした（この際の津軽藩の記録が『津軽一統志』に記載され、当時の蝦夷地の有り様を知る貴重な史料となっています）。

戦いは約半年の間続きましたが、石狩

アイヌなどシャクシャインの蜂起に呼応せずには中立的な立場を貫いた地域集団や、またシャクシャインと敵対関係にあるなどの理由で松前藩側につくアイヌの人々もおり（一方、シャクシャインの娘婿**太夫**など彼の側につく和人もいました）、

徐々に追い詰められたシャクシャインは、戦いの早期決着を望む松前藩からの和睦の提案を受け入れます。この和睦の場で松前藩はシャクシャインを奇襲して殺害し、戦いは終わりを迎えます。

この戦いの結果、松前藩は敵対的・友好的いづれにも関わらず、全てのアイヌの人々に七か条からなる起請文により「**逆心仕る間敷**」ことを誓わせ、これにより**和人（松前藩）とアイヌの人々の関係性は統治する側とされる側という枠組みに組み込まれ始める事**となります。

3 「和人地」へと変わり行く北斗市地域

シャクシャインの戦いの結果は、現在の北斗市地域のあり方にも変化をもたらすこととなります。

宝永7（1710）年に松宮観山によつて著された『**蝦夷談筆記**』によると、シャクシャインの戦いから40年が過ぎた当時でもなお江戸時代後半に見られるような厳格な蝦夷地と和人地との区別はなかつたようです。また、現在の北斗市内でいうと**茂辺地・富川・戸切地**（当時の

「戸切地」は戸切地川下流域一帯）などではまだアイヌの人々と和人の人々は交じりあつて住んでいたことがうかがえます。しかし、当地に住むアイヌの人々にとつて**和人と共に暮らすことは居心地のよいものではなく、徐々に蝦夷地へと移り住み最近はずつかり少なくなつてしまつた**。とも書かれています。この居心地の悪さの要因は、やはり先の戦いによつて生じた**和人とアイヌの人々との関係性の変化**にあるでしょう。元禄13年（1700）年の『**松前島郷帳**』では、**亀田番所の役割として「夷往來他国廻船改」とあり、アイヌの人々の蝦夷地との往來に制限が設けられていたことがわかります。**

また先に挙げた『**蝦夷談筆記**』や『**松前年々記**』などの記述によると、17世紀末から18世紀前半にかけて天然痘が渡島半島西側のアイヌの人々の間で流行し壊滅的な被害（「**大方絶戸候事**」）を与えており、これも彼らにこの地を離れる決意をさせた要因であつたかもしれせん。

こうして、現在の北斗市地域は徐々に明確な「**和人地**」へと変わり行くとともに、現在の街並みの基礎となる新たな村々も生まれ始めます。その源となつたのは、この地を貫く二つの街道にありました。今回は、この二つの道をとります。地域の変遷について紹介します。

（郷土資料館 時田 太一郎）

2022年 9月25日(日)

三橋実智也 二十七回忌追善メモリアルコンサート

演出 橋成 康仁 演出 宮下 五木ひろし

一疑の部 午後・時半開演
一夜の部 午後五時開演

内藤 雅也 次巻 寺澤 浩子 浅田 あゆみ 山本 謙司 林 健 吉川 聖実 中川 康衣 阿部 美代子 手塚 美子 和倉 仁

北斗市総合文化センター かなで〜る

チケット一般発売 2022年 6月1日(水)

【料金(税込)】 全席自由席 ¥6,000

【後援】 北斗市教育委員会、北海道警察音楽隊、北斗市吹奏協会、北海道文化庁、北斗市文化協会、北斗市音楽協会、北斗市音楽連盟

7月28日(木)

beyond 私の恋人 ガガ

出演 小日向文世のん 渡辺えり 松井夢 坂梨磨弥 廣瀬麻帆 山田美波 三枝伸太郎

演出 渡辺えり

北斗市総合文化センター かなで〜る

チケット一般発売 2022年 7月1日(金)

【料金(税込)】 全席自由席 ¥6,000

【後援】 北斗市教育委員会、北海道警察音楽隊、北斗市吹奏協会、北海道文化庁、北斗市文化協会、北斗市音楽協会、北斗市音楽連盟

各世代教室やっています!!

シニアらんど教室 8月5日・12日・19日・26日の金曜日

親子リフレッシュ教室 8月1日、8日、8月22日、8月29日

お問い合わせ先 北斗スポーツクラブ ☎ 73-6481

http://hokuto-noss.net/

♪音楽のまち・ほくと♪

マタニティー&ファミリー コンサート

2022. 8.20(土) 10:30~11:30(開場 10:00)

妊婦中の方や、赤ちゃん、小さいお子さまと一緒に楽しいひと時を過ごせます♪

クラシックや童謡、アニメなどやさしい音楽で構成するコンサートです。親子三代でもご参加いただけます♪

出演者♪ フルート 佐々木 花菜、クラリネット 馬場 さくら、ピアノ 養田 なつき

会場 北斗市総合文化センター かなで〜る 大会議室 (北斗市野野路2-13-1)

入場 無料(事前申し込みが必要です。裏面をご覧ください。) ★定員150名★

主催 北斗市かなで〜る協会 後援 北斗市・北斗市教育委員会・北斗市吹奏楽連協協議会

お問い合わせ 北斗市かなで〜る協会事務局(北斗市総合文化センター内) 0138-74-2000

申込方法 (①、②のいずれかの方法でお申し込みください)

①QRコードを読み取ってインターネットで申し込む

②電話で申し込む(北斗市総合文化センター 0138-74-2000)

申込期間は、7月1日(金)~8月7日(日)までです。

★申込多数の場合は抽選を行います。

北斗市民プール「かみんぐ」駐車場利用制限について

北斗市運動公園のリニューアル工事に伴い、7月上旬頃から駐車場の利用制限を行う予定です。ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願い致します。

令和4年度教育広報編集委員会

◎発行責任者 北斗市教育委員会 教育長 永田 裕

◎編集長 北斗市校長会 校長 加藤 良明(沖川小学校)

◎編集委員 北斗市教頭会 教頭 助川 剛(大野中学校)

北斗市内教職員 教諭 早坂 純一(萩野小学校)

教諭 吉田 真知子(上磯小学校)

教諭 廣瀬 葉子(浜分小学校)

教諭 渡部 知也(石別中学校)

教諭 山崎 蓮太(浜分中学校)

教頭 小野寺 利江(七瀬小学校がしあ学園分校)

養護教諭 丹羽 七海(石別小学校)

委員 長 安達 孝義

事務局 長 小野 育子

◎事務局 北斗市教育委員会社会教育課

学校地区プールの開設について

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止していた学校地区プールについて、令和4年度は萩野地区のみ開設いたします。開設日については、ホームページをご確認ください。